

新技術情報クラブ報告

「令和6年度新技術情報クラブ第1回交流会を開催しました！」

今年度第1回のクラブ交流会を令和6年7月24日（水）に開催しました。

今回は

①生命環境学域 地域社会システム学科 菊地 淑人 准教授

「文化遺産の活用・観光地経営からみた誰でも使いこなせる技術への期待」

②工学域 機械工学系 孫 瀟 助教

「賢いロボットの働き方 ～ロボット・機械の知能化の研究～」

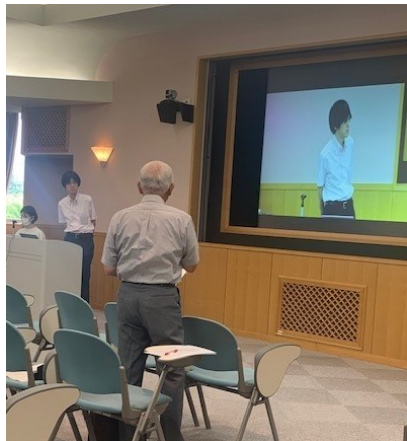
について、2名の先生にご講演をいただきました。

菊地先生の研究テーマには、「行政との連携で地域の課題解決に大いに役立つことができる」、孫先生の研究テーマには、「今後のロボットや機械の可能性への期待等」について、会員の皆様から様々な意見が出て、議論を交わしました。

講演後、ものづくり教育実践センターやものづくりプラザの施設見学を実施いたしました。

ものづくり教育実践センターでは、当センター所有の工作機械を実際に見てもらい、どのような加工や実習を行っているかの説明を受けました。

また、当プラザでは、電子工作やCADなどの工学的な基礎技術に加えて、山梨県の伝統工芸である印章・硯あるいは陶芸・ガラス細工などの実習等の説明を受け、ものづくりの楽しさについて感じていただきました。



発表後質疑応答の様子



ものづくり教育実践センター見学の様子

「アグリビジネス創出フェア2024」が開催されます

「アグリビジネス創出フェア2024」が開催されます。

本フェアは、全国の産学官の機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し、研究機関同士や研究機関と事業者との連携を促す場として開催する「技術交流展示会」です。

本学からは、以下の研究者の研究テーマが展示されます。

研究者	学域	研究テーマ	備考
茅 暁陽 理事副学長	生命環境	AIを活用したぶどう栽培支援技術	
片岡 良太 准教授	生命環境	食品ロスを再資源化し、新たな製品（キノコなど）へと再生する地域循環型食料生産システムの構築	11/28（木）のみ展示
柳田 藤寿 教授	生命環境	乳酸菌や酵母を用いた発酵食品開発	
小谷 信司 教授	工学	サクランボ自動選果システム（サイズ、等級、病害虫鳥獣被害果検出除去）	農水省推薦

- 開催日時
令和6年11月26日（火）～28日（木）
- 会場
東京ビックサイト 南2ホール
- 開催概要
右記RQコードより
ご覧ください →



2024
November

新技術情報クラブ
CLUB NEWS

国立大学法人 山梨大学

大学TOPICS

『令和6年度やまなし産学官連携研究交流事業研究発表会』開催

令和6年10月23日（水）、山梨県立図書館1階イベントスペースにて、令和6年度「やまなし産学官連携研究交流事業研究発表会」を開催し、企業・団体・自治体関係者や本学教職員等約120人が参加しました。

本学は、山梨県との包括連携協定に基づいて、産学官の連携を積極的に進めていますが、本発表会もその一環で、今年度で20回目の開催となりますが、ここ数年間は、新型コロナウイルス感染の影響等により開催方法の変更を余儀なくされ、県と本学が単独かつリアルで開催する発表会は、実に6年振りとなりました。

本発表会では、本学、県の各試験研究機関等で実施した、環境・地場産業・食品微生物・機械加工・電子情報・材料・土木防災・医療など幅広いテーマの成果が発表されました。

開会に先立ち、中村和彦学長や有泉山梨県産業政策部長の挨拶があり、その後、(株)大沼デザインスタジオのプロダクトデザイナーで、県産業技術センターの客員研究員の大沼敦氏による「プロダクトデザインとその背景」～山梨の可能性～と題して、記念講演が行われました。現在、デザインに求められているものは、「もののデザイン」だけでなく、「ことのデザイン」だと言われており、滋味あふれる産物豊富な山梨県にとっては、大きなチャンスであるとの話の内容に、参加者はたいへん興味を示しておりました。

また、研究者によるミニプレゼン（8件）が行われ、多くの参加者からの質疑応答が行われ、予定時間を超える盛況ぶりでした。

一方、展示会場では研究分野別にポスター展示（35件）が行われ、参加者はブースで研究者の説明を熱心に聞き入っていました。

当該研究発表会にエントリーされた研究発表の録画等が、本学のホームページからも閲覧可能ですので、是非ご覧ください。

※動画は下記QRコードよりご視聴ください↓

・やまなし産学官連携研究交流事業の ホームページ



・本学公式YouTubeチャンネル



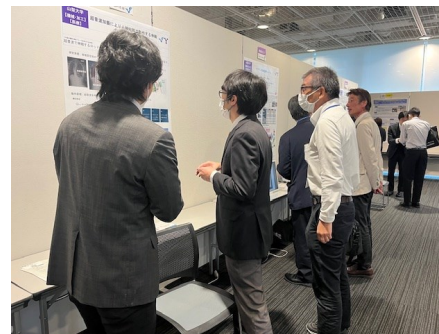
学長挨拶の様子



ミニプレゼンの様子



大沼敦氏講演の様子



ポスター展示の様子



ポスター展示の様子



【発行 2024年11月＊日】

国立大学法人 山梨大学

研究推進・社会連携機構

新技術情報クラブ事務局

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37

TEL : 055-220-8754

FAX : 055-220-8757

E-mail : renkei-as@yamanashi.ac.jp

URL : http://www.scrs.yamanashi.ac.jp/

大学TOPICS

イノベーションジャパン2024～大学見本市に出展しました

国内最大規模の産学マッチングイベントであるイノベーションジャパンが、令和6年8月22日(木)、23日(金)の2日間「イノベーションジャパン2024～大学見本市」として東京ビッグサイトで開催され、日本全国の大学等132機関から281件の技術シーズが出展されました。

山梨大学からは、武田哲明教授(工学域)の「浅層地中熱利用型空調 給湯ヒートポンプの開発と実証」を出展しました。エネルギー関連のブースは連日多くの人で賑わい、本学の武田先生のブースにも、大勢の方(名刺交換ベース：109名)が訪れ、開催期間中はたいへんな賑わいとなりました。特に武田先生は、終日休憩もほどほどに多くの来場者への対応に追われておりました。



ブース来場者対応の様子



会場の様子



出展者情報はここから↑



JSTによる新技術説明会を実施しました

研究成果(特許)の実用化(技術移転)を目的に、新技術や産学連携に関心がある企業関係者に向けて、研究者(発表者)自らが直接プレゼンする特許の説明会です。

新型コロナウイルス感染前までは、例年JST東京本部にて開催しておりましたが、今年度も令和6年10月8日(火)にオンラインで、以下の4名の研修者がライブ発表を行いました。

【山梨大学新技術説明会 発表研究者】

氏名	学域	職名	研究テーマ
関谷 尚人	工学域	准教授	中間コイルを用いた高効率で位置ずれに強いワイヤレス給電
姚 建	医学域	准教授	新たなたんぱく質抗酸化剤の製作及びその応用
新森 英之	生命環境学域	准教授	発光性金ナノロッドの合成と活性酸素種発生能
船谷 俊平	工学域	准教授	家庭用エアコンの制御システムをそのまま使える超省エネ地中熱エアコン

各研究者とも多くの方に聴講していただき、発表直後の質疑応答に加え、後日多くのご質問やご相談をいただきました。

なお、当日の発表動画および資料は、アーカイブスとして新技術説明会ホームページ https://shingi.jst.go.jp/list/list_2024.html で閲覧可能です。

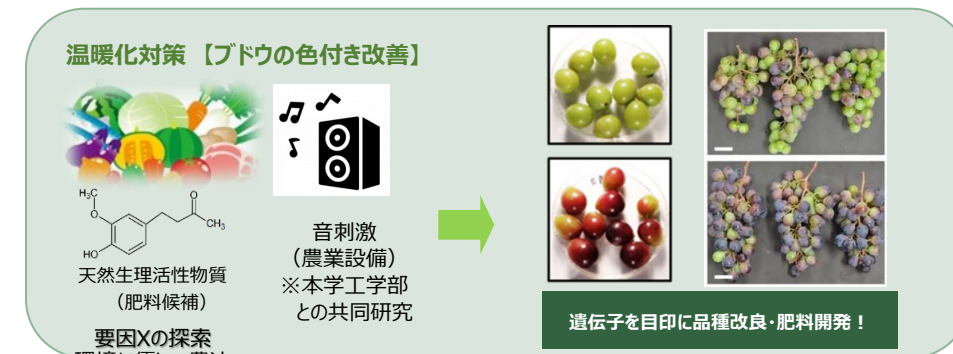
コーディネータによる【研究者紹介】

生命環境学域 生命農学系 地域食物科学・ワイン科学研究センター 助教 榎 真一 (Iナシイ)

今回は、生命環境学域生命農学系の榎先生を紹介します。
榎先生は、ブドウの生命現象を解明し、その知見を農業技術に応用することを目指して研究されており、以下の3つのテーマに取り組んでいます。

①ブドウ果実の着色不良の改善

・遺伝子や生理的メカニズムを解明し、着色不良の原因を探ります。



榎 真一 助教

②樹勢調整による栽培省力化

・ブドウ樹の成長管理を効率化し、省力的な栽培方法や品種開発をしています。

③甲州ブドウの品種特性評価

・日本固有の甲州ブドウをゲノム解析し、その特性を明らかにする研究をしています。



榎先生の研究は農業やワイナリーの現場でとても役立つことが期待できます。
特にブドウの着色不良は果樹農家の喫緊の課題であり、共同研究等の要望がありましたらぜひご相談ください。

新技術情報クラブ報告

「アカデミックサロン」を開催しました

今年度2回の「アカデミックサロン」を開催しました。
新型コロナウイルス感染の影響から、サロン形式での開催を見送ってまいりましたが、平成6年に入り、34回(令和6年1月17日)から会場を、甲府市のレストラン「アジュール」に移して、従来通りのサロン形式での開催を再開しました。令和は、6年度開催の内容は以下の通りです。

◆第35回 令和6年6月19日(水) 工学域・電気電子工学系 教授 小澤 賢司
「電子部品の感性評価と音のアレイ信号処理を巡って」

◆第36回 令和6年9月18日(水) 工学域・機械工学系 教授 岡澤 重信
「データ駆動型の機械設計」

第35回的小澤先生のお話は、聴取者の注意がスイッチ音の感性評価に及ぼす影響について、聴取条件により、どのように変化するのか実際に音を聞きながら検証しました。

第36回は、参加者の皆さまからの希望もあり、実際に起業をし、研究成果の事業化に取り組んでいる研究者として岡澤先生を招聘し、実施いたしました。岡澤先生は、山梨大学発ベンチャー企業で、デジタルソリューションを手掛ける「ダイバーテクノロジー社」の経営に携わっており、同社の事業戦略等も聞きながら、参加者との活発な意見交換が行われました。

今後も、今回と同様に事業化を見据えた研究成果等を中心に取り組んでいる研究者を招聘してまいりますので、次回(第37回)のアカデミックサロンは来年1月を予定していますので、ご参加のほど、よろしくお願いいたします。



小澤先生

岡澤先生